

平成25年12月2日

佐賀新聞掲載～ひびの子育て～

園長子育てコラムVOL. 11

「論語を育児の指針に『徳は孤ならず、必ず隣あり』」

ひびの子育て

論語を育児の指針に「徳は孤ならず、必ず隣あり」

私どもの保育園では、園児たちと「論語」というものに親しんでいます。論語とは、中国の孔子という儒教の先生に習ったことを、お弟子さんたちが書きとどめて本にまとめたものです。日本でも江戸時代の寺子屋では、子どもたちの教育に使われていました。

今回、その論語の中から、「徳は孤ならず、必ず隣あり」という論語を紹介させていただきます。

「徳」というのは、簡単に言えば人としての魅力です。人にやさしくできるとか、勉強ができるとか、スポーツが得意とかですね。つまり、「人としての魅力がある人の周りには必ず多くの友達やあなたを慕ってくれる人が集まってきますよ」という意味になります。

例えば、勉強や部活、親や友達を大切にすること、ご縁を大切にすること、そんなことがその人の魅力になり「徳」が身につけていきます。そ

うすると不思議なことに、自分から求めなくとも、自分の周りには多くの友達や慕ってくれる人たちが集まってくれます。その人たちは「あなたのためだったら」といって、色々な場面で助けてくれる人たちになってくれます。

今、元気に笑顔で過ごしている子どもたちも、社会に入れば多くの悩みや心配ごとが増えていきます。そのときに、わき目も振らず、自分の「徳」を積み、魅力をあげることが、悩みを乗り越え、自分を成長させるポイントなんですね。

「論語」には生きる上でとても大切な指針が示されています。お父さん、お母さんが子育てで悩んでしまったり、どう言葉をかけてあげればよいか分からなくなったとき、約2000年も前から現代まで受け継がれている「論語」を育児の指針にしてみてもいいかがですか。（パパ記者・吉村直記＝おへそ保育園園長）